

危機管理と防災について

藤原充博 議員

町長 住民の命を守るのが最優先



問 近年、異状気象が多発し、各地で甚大なる被害が発生しております。今年も東北大地震、大津波そして原発事故、和歌山、三重の台風被害等。日本は一体どうなっているんでしょう。天候も政治も円高も、大変です。

さて、「天災は忘れたころにやってくる。」という様に自然災害を予測するのは非常に難しいことですが、「備えあれば憂いなし。」普段から防災の意識を持っていくべきだと思います。今、日本各地でトラブルが発生した場合の危機管理が議論されて

おります。本町の危機管理の基本的な考えを伺う。

答 住民の命を守るのが最優先、最悪の事態を想定し、いろんな対応をしてみています。

問 私の見解では、物の状況や本質を見極め、想定外の問題に対処するのが危機管理だと思います。

今、汚染ワラの事もあり「仁多米ブランド」の危機ではないでしょうか。私は、米生産者ではないが、仁多米と酒は十二分に消費しており、消費者の立場で伺う。まず仁多米とはなんぞや。「仁多米ブランド」の条件、定義、規格とは、消費者にどの様にアピールするのか。

答 糸原農業振興課長

仁多米は仁多郡地域内で生産される水稲の総称です。「奥出雲仁多米(株)」では、エコ米、ハデ千し米、堆肥施用米、一般米に区分し、一等米基準のコシヒカリのみ取り扱っています。「JA系統」では整流歩合により1等から3等、格外という分類です。

問 消費者は、仁多郡でつくられた安心で安全でおいしい米との認識です。ですから、汚染ワラの

仁多米への影響が大変に気になります。それを消費者にどう伝えていくのか「仁多米ブランド」をどうやって守るか伺う。

答 糸原農業振興課長

放射線量の検査、玄米の検査状況を奥出雲仁多米の購入者すべてに通知し、完全に風評被害がなくなるまで必要とあらばやるという考えです。

問 仁多米と消費者に対し「安全証明書」をつけるとかして、この仁多米は間違いなく、安心、安全なおいしいお米ですと、よりわかりやすい方法でアピールすべきと思う。

先日台風では本町の被害は少なかったですが本町の治山ダムも大半、土砂で埋まっており、防災としての、本町の治山治水対策を伺う。

答 防災としての治山治水事業は、基本的には国

の事業で行われており、地すべり防止や堰堤、山腹工事、土どめ工事、間伐などそれぞれの場所に即した形で防災事業が実施されています。今回の災害でも県と連携し、速やかに復旧作業が進むよう取り組みます。

問 大雨になると裏山から異常に水が出るなど連絡があり、町当局に連絡すると、被害がないから対応できない、予算がないからどうにもならないとの事だが、ハザードマップなど参考にして専門的な知識で判断していただき、被害が発生する前に対策なり検討すれば少しでも災害が防げたり、人命が助かったりするのではないかと、防災のあり方について伺う。

答 石原農林土木課長

災害が発生してから対応していますが、大きくならないところでの調整を地元の方と一緒に考えていきたいと思っています。

答 松島建設課長

ハザードマップを見ますとたくさん危険な箇所がありますので、それらの対策に向けて、県や国への要望を進めていきます。

※独居老人の方や、高齢者の家庭では、特に大雨が降ったり大雪が降ると非常に不安がられます。できるだけ早い対応をお願いしたい。